磐城之實業
毎週日曜日發行
發行兼印刷人 大和田與平
發行所 磐城之實業社 磐城市九十二 電話五五五番
定價 一部金五錢郵稅共 半年分一圓廿錢
廣告料一行三十錢 但場所指定增十錢
印刷所 大和田印刷所 平町南町五十番地 電話四六番
印刷は 大和田印刷所 平町南町

◆紙上政談演說會◆

如何に戰ふか何を武器とするか
政民の旗印を批判す
國家政策を論爭するよりも
縣治大政策を研究調査せよ

磐城之實業社長　大和田與平

光輝ある普選第二陣の縣議選擧も茲僅に殘す旬日に迫り、政戰は時々刻々猛烈を極むると共に政民無產各政黨の候補者並に運動員の運動方法たる演說に文書に何れも人氣取り本位にあるかを觀取され現下不景氣の原因に對する責任轉嫁の論爭のみを敢てなし縣治百年の大策政に言及せざることは筆者の最も苦々しく思ふ處である。

政治は論議でもなければ又主義でもない、完全なる主義の適用である、而して縣議戰は衆議員總選擧の基根であつて縣下政黨の消長を暗示すべきものとは謂へながら即ち現內閣の反對黨たる政友會が現在の深刻なる不景氣を以て現內閣の緊縮政策整縮政策の責に歸し政友會內閣出現すれば忽ち好景氣來のこと必然なる如く宣傳するに對し、與黨たる民政黨は現在の不景氣を以て政友會從來の積極政策放漫政策の結果なりとして論ずる如きは政民何れも愚劣極まる沙汰なりと評するの外はない、言ふまでもなく大衆の專ら聞かんとする所は今日の不景氣が如何にして招來されたかと云ふ過去の原因よりも如何にして今日の不景氣より脫却し得べきやとの將來の對策ではあるが、是れは國家問題で縣議戰に直面した今は縣治政策を深甚に冷靜に研究すべきの秋であるのである。

隨つて各政黨の候補者が眞に縣治に對する大抱負大經綸を民衆の批判に訴へんとするならば無益なる過去の論爭を止めにして、一に將來の縣政對策に就いて地方人の前に其の所信を明かにせねばならぬものである縣政の延長は國家政策問題なりとして或は現在の不景氣を打開するためには、過去に遡つて其原因を探究する必要もありとて各其責任の所在を論ぜんか、然らば政友會も民政黨も共に同罪なりと斷ぜざるを得ないのである、政友會の過去に於ける極積政策が如何に財界に禍せるかに關しては夙に定評の存する處で、現在の不景氣に就て政友會に非難の資格なきは云ふまでもない事であると同時に、民政黨に至つても多年緊縮政策を標榜するに拘らず、政友會及其支持する內閣の跡を承けたる其在朝時代に於て、所謂緊縮政策の實行に每度不徹底を極めたる事は國民一般の知るところであるから、過去の財政放漫を指摘して今日の不景氣の禍因を爲す點に於て民政黨亦責任の一半を分擔すべきものである。

而して現在の不景氣は他に原因の存する有りとするも過去の歷代內閣が殿州大戰後の財政々策を誤りたるに基因し其責任は今日の朝野二大政黨に免れざるものであつて、之を以て政爭の題目に供するが如き尙且つ地方政策の縣治機關に之を延用する等は全く兒戲に類するものと評するも敢て過言ではなからうと思ふものである。

要するに面面せる縣議戰は各政黨が旣往の政策を論爭批判するよりは將來に行せんとする政策を提示して縣民の審判を受くる機會であると同時に其標榜する抱負經綸に對しては絕對の責任を負擔すべきであつて、無責任なる人氣取一偏の演說などは斷じて愼まねばならぬことである。

地方議會と中央政治とは全然別個のものでなければならぬとも解釋し得られるが其れは論理であつて知事の公選其他に於て全く自治ならざる官選官吏の任免される今日、地方が中央の基礎であり、とすれば密接不離の關係を有するとは謂へ、吾人は地方議會に出でんとする候補者又は是を推さんとする人士は地方啓發と自治問題の大處より觀じて以て自己の有する一票の權利を無爲に終らしめざらんことを切言するものである。

選擧費二千四百萬圓余

本月中に執行される府縣會議員の選擧は全國で二府三十七縣に渡り目下朝野兩黨及無產黨は互に秘術を盡してその必勝を期すべく畫策に熱中してゐるが此の定員一千五百二十四名で法定選擧費の平均三千圓であるが立候補者數は其二倍半約四千名に達すべく實際運動費の如きも法定費用よりは種々なる名義によつて少くとも倍額が支出せられるのが常であるから結局選擧費用は二千四百萬圓余の巨額は僅か一ヶ月以內に全國にばら撒かれるものである。

◇公開論壇◇

◇十二字詰百行以內◇文體隨意◇題目自由◇人身攻擊或可◇匿名可◇投書歡迎◇

縣議戰に直面して

平町　西北隱士

世人は或る目的に向て勝敗を決する程感情を激動させるものはない、例へば彼の博徒にも人知れぬ義理堅い處があるもので互に兄弟分になろうと約したら眞の兄弟以上に情義を盡すものである然るに之れ程堅い約束を交したもの同志が賭博をやつて僅かの金錢の問題へから遂に命の取り遣りと云ふ大喧嘩が始まる事は決して珍らしくはない、之は必ずしも金に賤しくして爭ふのでなく感情から來る爭である、而して之の爭を精神は果して人心に影響する處は決して絕無であるとは誰に取り返されはせぬかと云は交際まで絕つ例もある。而して其の爭の最も大なるは即ち政治家の爭である、金錢其他の物質にせよ乃至は又封建時代の武士の如く現今の政治家は果して其任務を完全に遂行して居るか一旬に迫り戰線の火蓋に耳ふことには必ず目的物が伴ふそれだけに又危險性が多いのである況や政治家の爭を立て感情を激昂させ遂に一目一步の遠ひから目に角を立て感情を忘れ甚だしきは國家觀念をすら忘れて只勝敗を爭ひは己が名譽と地位權力とを賭するのである、從つて之を實行する閑はないのである、見て見ぬふ事に夢中になつて居る事は間違ひなき事實である。

世人は或る目的に向て勝敗を決する程感情を激動させるものはない、例へば彼の博徒にも人知れぬ義理堅い處があるもので互に兄弟分になろうと約したら眞の兄弟以上に情義を盡すものである然るに之れ程堅い約束を交したもの同志が賭博をやつて僅かの金錢の問題へから遂に命の取り遣りと云ふ大喧嘩が始まる事は決して珍らしくはない、之は必ずしも金に賤しくして爭ふのでなく感情から來る爭である、而して之の爭を精神は果して人心に影響する處は決して絕無であるとは誰に取り返されはせぬかと云は交際まで絕つ例もある。而して其の爭の最も大なるは即ち政治家の爭である、金錢其他の物質にせよ乃至は又封建時代の武士の如く現今の政治家は果して其任務を完全に遂行して居るか一旬に迫り戰線の火蓋に耳ふことには必ず目的物が伴ふそれだけに又危險性が多いのである況や政治家の爭を立て感情を激昂させ遂に一目一步の遠ひから目に角を立て感情を忘れ甚だしきは國家觀念をすら忘れて只勝敗を爭ひは己が名譽と地位權力とを賭するのである、從つて之を實行する閑はないのである、見て見ぬふ事に夢中になつて居る事は間違ひなき事實である。

自己免許的死物同然の學理や机上の空論のみ之を以て諸般の事績を擧んとするは誠に百年河淸を持つの類である、我等國民は何を信賴となすものである、然るに現今の政治家は果して其任務を完全に遂行して居るか金錢其他の物質にせよ乃至は又封建時代の武士の如く現今の政治家は果して其任務を完全に遂行して居るか一旬に迫り戰線の火蓋に耳ふことには必ず目的物が伴ふそれだけに又危險性が多いのである況や政治家の爭を立て感情を激昂させ遂に一目一步の遠ひから目に角を立て感情を忘れ甚だしきは國家觀念をすら忘れて只勝敗を爭ひは己が名譽と地位權力とを賭するのである、從つて之を實行する閑はないのである、見て見ぬふ事に夢中になつて居る事は間違ひなき事實である。

自己免許的死物同然の學理や机上の空論のみ之を以て諸般の事績を擧んとするは誠に百年河淸を持つの類である、我等國民は何を信賴となすものである、然るに

戰塵上り群雄入亂るゝ
石城の縣議戰況
各候補必死の努力目覺まし

九月二十五日！剩す所旬日縣議戰は第一期戰を拔きにしての第二期に入りて今や各村とも火花を散らしての大混戰を演じてゐるのである。各候補者の情勢を出陣順に報ずることゝする。

野崎

全郡に戰線を張り文書戰に言論戰に鋭意奮鬪、善戰して各村共人氣を博して居るは候補野崎滿藏氏が過去四年間の努力が認められたるものであらう。然し樂觀を許さざるものゝ如く他迄猛運動に最後の五分間迄はと猛烈なる一致の歩調で進軍して居るが選擧民は手腕の人、事を依賴して信ずるに足る人、口の人に非ずして實行の人なることは一般の理解する處となつて居る。

草野

民政派に於ける練達を以て鳴る奮鬪家で縣會に進出せんとするは寔に當然の順序であり同派の北部區民も又之を望まざるを得ないことである、永く自治の實際に參與し來り我黨の發展には甚大の貢献をして居るのである、形勢日に〳〵氏に有利に進展しつゝありと傳へられる同派候補濫立の傾きある塙合此の逐鹿戰に於て萬一に玉石同架の結果を生ぜしめざるやうに區民は一致して氏の如き人材を逸することなきやう努めねばなるまい。

田子

前回の雪辱戰でもあり今度は公認とあつて其の候補者中の最少壯者、新進氣鋭にして識見高邁、硬直清廉、力の人として將來有爲の大器たるを疑はざるより議員として働かせる時は政友派に於ける一頭地を拔くべく我黨幹部の隱謀不純の謀策など今氏後に依つて一掃さるべきも今や一段の奮鬪を要すべく然し同情は

萩原

石城の民政派は黨内に二派の流れを異にするとは云へ斷然比佐黨の總師幹事長たる萩原義雄氏の出馬は純眞の理論から見ても明るい推薦である、單純平明なる性格は同志が他迄公援候補として立候補せしめたのである、其地盤は平、内郷を主とし天領植田を得たるも石川、赤坂等の兩候補によつて浸蝕される形勢あるからこの混戰を極むる逐鹿界に於て樂觀し得ざるは勿論である、策戰に弛緩なくんば當選の榮冠は君の頭上に有べければ此處數日の活動に依り大いに防備を嚴にする共に一層の進出をなし最後の日に凱歌を奏されることを切に期待する。

井上

識才の豐にして政治に理解を有し自治に研究の功を積み當然に推薦された關内正一氏は勇退して長老井上氏の返り咲きに花を持たせた處に平町は何と云つても關内氏の勢力と候補者中第一位の得票あるべく郊外に於ける兵力の乏しき憾みを免れざるべきも策戰のよろしきを得て進出を強くすることに遺算なきを期し緊褌一番關内氏の努力と援助と

石川

比佐宗の寵兒肱々の勇將たる石川德壽氏は郡南を根據として出馬し驚清昇氏の應援を得て益々勇を鼓し奮戰して刻々に伸張振りを見せて居るものゝ如し特に入山炭礦の如きは全山一致しての應援旗は鮮かで隨つて軍資等も又惠まれたる觀あり堅實なる運動に頻りと同情の集りつゝあり。

赤坂

突如として公認された赤坂氏は郡南を中心としての古川傳一氏の采配に大に奮鬪することなるべきも稍々苦戰を感ずるものゝ如く蓮沼に於ける一圓中には田子黨の相當に散在するあり戰陣は多數の敵に備ふるの覺悟を要し得票を各方面の必要愈々急を告ぐるものがある。

松本

無産候補として特色を有し勞働階級を背景に言論一方で馬を進めて居る、勿論プロ連の共鳴者は多數あるべきも到底豫想は付き難いものがある然し其の結果は今後に於ける問題となる。

通觀して

定員六名に對して八名の立候補は二名の貧棒籤を引くものある譯で此處が即ち選擧は最後まで樂觀を許さざる以所である現狀の各派勢力では民政果して四名の當選を見れば政友二名となり政友全部が當選すれば民政一名の落選を見ることゝなるのであるが今の處、全く判斷付かざるものゝ如し。

推薦狀に加名を求めての戸別訪問はよい
警保局の解釋で安心

普選法では投票を得る目的で有權者を戸別訪問することは公認されたが法網をくぐる巧妙なる行爲が何時の間にか頻繁に行はれてゐる、それは推薦狀を發せんとするものが各戸、若くは各人に付き推薦狀に加名を求めるべく勸誘する行爲である

これに關する大審院の判例は區々で即ち

一、推薦を依賴したるものなりといふべからざると同時に推薦を諾約したるものは必ずしも投票を諾約したるものといふべからざるや論なしと雖も選擧人にして既に一定の議員候補者として推薦せんことを諾約したる以上はその人に投票することは人情の自然なれば議員候補者として推薦せんことを依賴する者はこの人情の機微を促へ投票を得若くは得しめんとする目的を有するものと認めるは社會通念に照し決して失當の見解に非ず

○

一、當事者が推薦狀に加名を勸誘したるに過ぎざるや、將に被勸誘者の投票を得または得しむる目的を以つて推薦を依賴し

○

單に推薦狀に加名を勸誘

青年と思想

江尻生

醇はなる政戰を馬耳東風萬圓の富を最も有害に消費しつゝある現代、姪貿を制度として公許しつゝあるために男女の道德觀を根本的に破壞しつゝある現代、宗教心の涵養には全く無自覺なる現代、貧しき者が學びびこそ實に天の聲なのである。

飲酒のために年々十五億の行爲は當然相手方の投票を目的とするものなりとの實驗法則存するものに非ず

○

となつてをり推薦狀に加名のために個々面接や戸別訪問をなしたる場合に相手方の諸般の事情を斟酌してこれを判斷すべきものにして、選擧人に對し推薦狀に加名を求むる行爲は當然相手方の投票を目的とするものなりとの實驗法則存するものに非ず

○

たるやは各事業に於ける意思を表示せず單に推薦狀に加名することのみ依賴したる場合に相手方の投票を得ざるが如き現代、女性を以て思想の惡化なりと叫びふくめたる眞に自由にして平等なる普通選擧の未だ行なわれざる現代……。

凡そかくの如き環境のうちに獨り青年の思想磐石の如く堅く綠の如く清純ならんことを求むるが大體無理ではないか。

由來青年は希望に生き、老人は追憶に生き、青年は理想を夢み、老人は過去を語り青年は常に進み、老人は止まつて退かんとす、老人が青年をして老人たらしめんとするは無益と言ふよりは有害の努力束縛である。

やりたければやらしてをけ延びるものは延ばしめよ、失敗するも又青年にとりてはよい教訓ではないか、轉ぶことを氣つかつて老人が青年の身體をつかまへんとするは青年としては有難迷惑だ、青年はころんでも宜い走り出したいのである。

繫累なく、情實なく、遠慮なく、忌憚なき青年の叫び聲こそ實に天の聲なのである。

世は變つたものなり。

觀自在

石城郡に於ける縣議戰の最高位の得票は四千四五百かそれとも五千を突破するか頗る興味ある豫想であるが第六番目の當選、最少數は三千か乃至は二千八九百か是又面白い話の種でござる

◇民政派は總裁初は總務顧問と堂々たる推薦狀を發したるに反し政友會はは、き一枚にて宜敢く賴むとある

世は變つたものなり。

ひ、地主階級は小作爭議を以て思想の惡化なりと叫び貴族階級は水平運動を以て思想の惡化なりと云ふ。

而して今や常に保守的なる政府が自由と潑剌とにを思想惡化の誘因として之を禁止したが又之に彈壓を加へ或は學生劇を男女學生の思想軟化の誘因として之を禁止したが又思議ではないか。

一は保守的一は急進的全く其立場を異にせる爲めに其主張を異にするは亦た止むを得ぬが、しかも一を善とし一を惡とし、一を是一を非なりとは輕々に斷じ去り得べき性質のものでないのである。

欲酒のために年々十五億萬圓の富を最も有害に消費しつゝある現代、姪貿を制度として公許しつゝあるために男女の道德觀を根本的に破壞しつゝある現代、宗教心の涵養には全く無自覺なる現代、貧しき者が學びびこそ實に天の聲なのである。

世の青年諸君！輕擧妄動に陷らざる限り、社會問題思想問題、風敎問題、信仰問題、政治問題等苟も青年にとつて以て研究の對象となすに足るものは自由に之を研究し、思索し、而して大膽に之を發表せよ、此の如きは惡化にもあらず危險にもあらず唯其本性に從つて其然るが如く然るのみ。

然るに左右を顧み衷心の鬱塊を吐露することを憚り却て老人の口吻を模するが如きは實に青年意氣の墮落と云はねばならぬ。

農村に利用の小さな發動機

正金商會の奉仕事業

近頃四分の一馬力と云ふ小さい電氣發動機や、石油發動機が段々農村に使はれ始めて好成績をあげて來てゐる、農村に電氣機械が使用されにくいのは電氣料金や機械油の比較的高くつくといふことが主なる理由であるが機械を盛んに利用することに依つて電力料や油代位はわづかなものになつて即ち大量生産が時間節約に依つて余力の副業が生ずることになるのである。

◇……◇

平町七丁目正金商會の一手販賣に係る瑞光式モミスリ二號機の如き二馬力半で一時間十八俵乃至二十俵の能率を示し又單相モートルは百ボルトの電燈線を利用して籾擂にも稲扱にも精米にも使用出來ると云ふ、機體が小なる爲め取扱ひ容易で移動作業に輕便である、總鐵製なるより堅牢此上も無く特に優秀な超高級品とあつて農林省より折紙付の名聲を有して居るのである。

◇……◇

その適例は東北では新潟縣の中頸城郡の如きは一郡で瑞光式モミスリ機や單相モートルを二千數百臺も使つて居るし裏日本の石川、福井、鳥取、島根等にも今この小型電氣發動機が縣下一圓特に濱街道及田村郡へも昨年あたりより盛んに普及されてゐるのである、此の小型電氣發動機を年中使ふことを考へ、また共同に設備することなど考へたら一層有利な成績を見られて機械利用によつて農村の富は非常に增殖される事となるのであらう。

◇……◇

農村に電氣機械普及に獻身的な努力されてる正金商會主の芳賀沼太郎氏は、島民政部の技術員や滿鐵社員として海外に十年の生活を送り平町に居を構へてから既に滿五ヶ年一意專心農村の機械化に奔走して居る電動機の修繕の如き百パーセントの技術を發揮して迅速に優良に廉に出張して義俠的に販賣乃至修理に努力し居れりといふ。

その余力で副業の益を增進するたけ農村の勞力に約し益々同情が加はるべし。

磐新の記事は何を物語るか？

一部策士の田子氏壓迫

反つて同情集まる人間味

舊政友一致の猛運動

平町七丁目正金商會の一手販賣に係る瑞光式モミスリ二號機の如き二馬力半で一時間十八俵乃至二十俵の能率を示し又單相モートルは百ボルトの電燈線を利用して籾擂にも稲扱にも精米にも使用出來ると云ふ、機體が小なる爲め取扱ひ容易で移動作業に輕便である、

◇……◇

農村に電氣機械普及に獻身的な努力されてる正金商會主の芳賀沼太郎氏は、島民政部の技術員や滿鐵社員として海外に十年の生活を送り平町に居を構へてから既に滿五ヶ年一意專心農村の機械化に奔走して居る電動機の修繕の如き百パーセントの技術を發揮して迅速に優良に廉に出張して義俠的に販賣乃至修理に努力し居れりといふ。

その余力で副業の益を增進するたけ農村の勞力に約し益々同情が加はるべし。

新案大入叶の

△△△

共樂世帶

平南町は中程にうどん屋を營んでゐる東北は機場の產地、米澤邊の產物の中年增に現を抜かした入遠野の何某をよろしくして居た處へ同村の助役殿とかを物にし大枚の金子を卷揚げたとの風說だが今は四倉町で代書業をしてゐる男とかより相當の月手當を頂戴に及んで居るが近在の酒屋の若主人などテッヤワンヤと新陳代謝の發展振りに南町一圓の飲食店は其の影響甚大とある先は評判々々……。

全精神を奉公に捧げし

廢兵軍事思想の振興に努力

之れ一時金恩給改正の叫び

全國一時金廢兵聯合會員約百名が這般明治神宮に斷食祈願をなし其後第二回の積し其月的貫徹に參加、運動に從事しつゝある石城郡內廢兵は平町一丁目飯田代表ト露營の覺悟を以て他迄一時金恩給改正を絶叫せんと近治、同町古鍛治町小野道直兩氏にして常に我國武士道の把持者を以て任じ軍事精神の振興を計り一朝有時の場合士氣の衰退を來すを恐れて一時金恩給改正を叫ぶと共に廢兵に對する國民待遇の溫かならんことを訴へんとして先づ手近より是が實現に奮鬪すべく此程平町磐城共濟病院に傷疾軍人及家族の無料診療を交渉したるに直ちに滿悅なる結果を見たりと云ふ內容左の如

嘆願書

我等ハ日清日露ノ大戰役ニ際シ義務兵トシテ一身一家ヲ顧ミズ從軍シ君國ノ爲メ各地ニ於テ奮戰遂ニ傷疾ヲ受ケ不具廢疾トナリタル者ナレバ優遇且ツ我國民ノ意氣忠君愛國ノ精神ヲ奮起セシムル意味ニ於テ軍人傷疾記章所持者及家族ニ限リ無料診療ノ特典ヲ附與セラレンコトヲ嘆願仕リ候也

福島縣傷疾軍人會
石城郡分會總代
飯田近治
小野道直

磐城共濟會
會長　賀澤忠治殿

右の願望に對し磐城共濟病院は直ちに快諾されたり

福島縣傷疾軍人會
石城郡分會總代
飯田近治殿
小野道直殿

貴會御提出ニ係ル傷疾軍人及其家族ニ對シ無料診療ノ件ヲ承認ス

昭和六年九月十一日

磐城共濟會々長
賀澤忠治

而して本縣に於ては去明治三十九年の縣會に於て縣立中等學校生徒にして廢兵の子弟は授業料の免除を決議し翌四十年度四月より之が實施をなしつゝあるのである昨今本縣自動車協會に於ても在鄉軍人傷疾記章佩用者に限り無賃乘車の特典を與ふべく協議中でもあるが隣縣茨城では自轉車稅の免除あり全國の交通機關に於て無料乘車の便益を計つてゐる處は百以上に達し居れりとのことである。

告

第四面をごらん下さい

新作落語

珍噂髮白浪

四倉町　都家山朝

光『一寸、お前さん、何んだつたんぢやアないか』八『困つて家の前にボカンと立つつたな、どうも』光『それはてるンだね、早くお入りよかりぢあないよ、お前さんお金は出來たのかい』八『其米は切れる、醬油は切れるが出來ないンだが、お前の味噌は切れる……』八『恐ろし方で何んとか成らねいのかい』光『成る譯がないよ、私ないものはないか』光『臺所の着物から腰卷、女の大事な髮の毛迄切つて賣つちまうん、良い事があらア、お光耳を貸せ』光『成程、だつて私だつて事が解らあね』八『親方は眼が惡いから、胡魔化せらア』お女房さんと何やら打合せを致しますと御湯に入り足の先迄念入の御化粧、何處で仕入れたか派手な衣裳で、頭の毛の無いと云ふので鬘を冠りまして夫婦連でやつて參りましたのは親方の家で、八『今晩は、親方居りますか』親『誰だ、八か、又來やアガッな馬鹿野郎何度來たつて手前に貸す金は一文もねいとつとゝ歸れ、まご〳〵しやアがると水をぶつかけるぞ』八『實は女の一件で參りましたが』親『何、女の事だ何を まご〳〵してるンだ、さつさから入れ〳〵と口をひにやるだけの事でエへ、お前は……』八『時に親方後妻を探してるてえ事を聞きましたが、何しろ對手は名代の助平兵工……何名代の親切者だからつてんで、私の遠緣の者ですが連れて參りました年は十七才で未だ處女ですから宜しく一つ』親『いや氣に入つた、今日から宿の妻盃いてつてお呉れ』八『エーそれに女一通りの事は存じて居ります、それに武術迄心得て居りまして、劍術は柳生流、体術は澁川流、鎗ば資藏院、薙刀は靜流、按摩は杉山流踊は花柳流……』親『大層流儀を並べたね』八『エヘ、……何しろ、皆目錄以上なんで、處でエヘ……これの家が左前になつて居りまして支度金の處を一つ、五百圓ばかり頂戴したいんで尤も家族さい引取つてもらへば、それには及びません』親『ウーム、家族を引取るかな』八『處で家族が多すぎるし皆働けない人間なんで、かへつて御迷惑かも知れませんので』親『何人ぐらい』八『全部で六十三人ばかり、……』親『ウーム五百圓持つぎな』八『有難さう御座んす、ちやあ娘は置いてきますから、御樂しみ、左樣なら』親『名を聞くのを忘れたね一姉さん此方へお出で』親方が手を引くひようしに鬘が拔ける、お光さん驚ろいて飛出してしまへました人變つて來たのが八五郎で親『やい太い野郎だ、今の女は手前の女房じやねエか、女房を取りに來たのか』八『なあに落した鬘を取に來た

（昭和六年九月二十五日執行）

縣會議員選擧石城郡各候補者得票豫想記入表

町村別	有權者數	其他權	投票豫想數	各候補者氏名	各候補者氏名	其他	備考
平	四、一〇三						
飯野	六二九						
鹿島	三八三						
江名	一、〇八三						
豐間	七一三						
高久	五〇四						
夏井	五二三						
神谷	六七八						
草野	八七〇						
大浦	八三六						
四倉	一、三六五						
大野	七八七						
平窪	六二七						
赤井	一、三三二						
上小川 下小川	四〇〇 四二三						
川前	六〇八						
三澤 渡坂	五一二 三〇八						
箕輪 水戸	五〇四 二六一						
好間	二、〇九六						
內郷	四、六二五						
湯本	二、五五四						
磐崎	一、三九二						
上遠野	九〇八						
入遠野	八二九						
田人	九六七						
川部	七一七						
勿來	一、四五六						
錦	六七二						
山田	六五一						
植田	一、〇七三						
渡邊	三九九						
泉	七四〇						
玉川	四六八						
小名濱	一、七三二						
合計	三八、七一五						

福島縣下唯一の週刊新聞
不偏不黨嚴正中立
磐城一の特ダネ揃
磐城之實業

大敷網問題
妥協成立か
完全に高橋氏勝利

小名、江名兩漁業組合は本紙前報の如く高橋亘氏の勝利によつて殆んと手も足も出されぬ慘憺たる立場となりたるを知りたる小船業者は狼狽其極に達し組合の態度に對する憤慨は遂いに大會を開きて幹部の陰謀手段を糾彈するこゝなつたが後の祭りで如何になすも好轉の見込みなくたゞ腹癒せに最後的手段をとるが如く惡化し來りたるより高橋側は何等關係なき良民には同情せざるを得ざるべく其の方法等に付ては最善の處置をなすべく講究中であつたが縣當局も事体容易ならずと見て兩者の中に入り妥協案を提示して和解に努力することゝなり兩組合は四萬圓（其內二萬圓は白井）を高橋氏に賠償の意味に於て提供し定時漁業の大敷網は契約期限殘余二ヶ年間は白井側に於て經營し高橋氏には改めて契約期間十ヶ年として締結し地先漁業權は兩組合從來の通りとなすべき案件にて妥協を進め居るも實際高橋氏の該事件に要せし費用は六萬圓を突破するの巨額なりと云ひば此の金額を支辨して手打となるには非らざるかと歎測さる。